

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

ONRTの学校平均偏差値(国語・算数)を1ポイントアップさせる。
ONRTの「アンダーアチーバー」児童数を減少させる。(国語17%→10%、算数24%→17%)

3. 指標にむけての取組

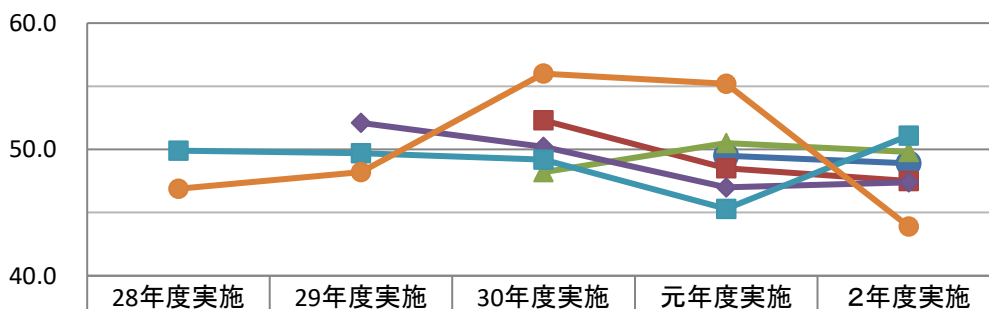
- 意図的・計画的な「かく」活動(自分の考え、ふりかえり)を設定し、積極的評価を行う。
- 基礎・基本の内容を確実に習得させるために、ねらいを明確にした授業づくり及び、形成的評価を実施し確実に補充を行う。
- 算数の重点単元を設定し、少人数分割授業を実施する。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
本校(A)	49.9	51.7	50.8	50.0	48.2
嘉麻市(B)	50.7	51.5	51.4	51.1	50.9
(A) - (B)	-0.8	0.2	-0.6	-1.1	-2.7
標準偏差値との差 (A) - (50)	-0.1	1.7	0.8	0.0	-1.8

各学年の推移



	28年度実施	29年度実施	30年度実施	元年度実施	2年度実施
● 2年度1年生				49.5	48.9
■ 2年度2年生			52.3	48.5	47.5
▲ 2年度3年生			48.2	50.5	49.8
◆ 2年度4年生		52.1	50.2	47.0	47.4
■ 2年度5年生	49.9	49.7	49.2	45.3	51.1
● 2年度6年生	46.9	48.2	56.0	55.2	43.9

5. 各学校における分析

○算数科においては、昨年度と比較すると、3学年において伸びが見られた。特に、最重点学年として取組を進めてきた5年生において、4.6ポイントの伸びが見られた。このことから、専科教員を各学年に配置し、複数体制による指導を行ってきたこと、ていねいで構造的な板書やノート指導の工夫、家庭学習等による繰り返し指導を徹底したことは有効だったと考える。

○評定1児童、アンダーアチーバー児童の割合が、増加している。基礎的な学力の定着及び、学習意欲の喚起が不十分である。レディネスをきちんとそろえること、1単位時間における形成的評価をもとにした補充学習の徹底をすること、学習意欲を喚起する導入の工夫を行うことなど、更なる指導の工夫が必要である。

6. 各学校における今後の取組

○自分の考えを「かく」活動の更なる充実を図るために、「どこで、何を、どのように」、「かく」のかを明確にした授業づくりを行う。また、かいたものを適切に評価していくことにより、「かく」ことへの意欲及び表現力の向上を目指す。

○基礎基本の確実な習得を図るために、1単位時間における指導内容の明確化、問いづくりを大切に導入の工夫、形成的評価をもとにした補充指導の徹底を行う。

○児童の学ぶ意欲の喚起、望ましい学習環境を保障するために、少人数分割授業や入り込み指導を行う。算数科においては、全学年に専科教員を配置し、複数体制で指導を行っていく。

○週に一度、鍛ほめ福岡メソッド「いなちゃんパワーアップタイム」を設定し、学力の根源をなす非認知能力(学ぶ意欲・自己肯定感・協働する力等)の育成に努める。

○家庭学習による反復学習を継続する。また、学力や学習意欲に課題がある児童には、低学力の克服も含めて、家庭学習の個別化の推進及び放課後の個別指導を行っていく。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。